
暗闇の中からの脱出-太陽と月の物語-

アサシクロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗闇の中からの脱出―太陽と月の物語―

【Nコード】

N2035S

【作者名】

アサシンクロウ

【あらすじ】

世界最強の兵器『インフィニット・ストラトス（IS）』。男女のパワーバランスが崩れ、女尊男卑が当たり前の時代。織斑一夏は、男なのにISを起動させ学園に入学させられる。

今作の主人公も男でISを動かすことに成功した橘 一樹はある人のせいでIS学園に入学する。だがつまらないと思っていた学園生活を送る内に……。

原作ベースでいきます。文才ないけど宜しく願います。意見や感想など、今後の励み、参考にするのでどんどん願います。

プロローグ（前書き）

小説を書くのは初めてです。

えっと、ではどーぞ!!

プロローグ

暗い・・・。

いつから此処ココにいるんだっけか・・・？

6才の時に両親に捨てられ、研究者の玩具おもちゃにされて・・・。

研究所に縛られる人生だった。

そこでいろんな仕事をしてきた。いろんな勉強をしてきた。

・
・
・
・
・
・

でも・・・、そんな日々にも飽きたなあ・・・。

「ん？」

PCにメール・・・。いや、依頼か・・・。

「今度の依頼は何かな？（笑）」

楽しげにメールを開く。さて、今度はどんな内容かなつと。

「なにになに？・・・了解」

やっと、新しい生活が始まるのか・・・。楽しみだ。

「じゃあ、手始めに・・・。」

そう言い残して少年は、暗闇の中へ消えていく・・・。

この日、その研究所とそこにいた人がすべて消された・・・。

いや、正確には消し飛んだと言わべきか・・・。

世間的にはシステムの誤作動による爆発事故ということになった。

だが

その裏で15才の少年と1機のISが絡んでいたことを、誰も知ら

ない
・
・
・
○

プロローグ（後書き）

意見や感想お願いします。

オリジナル（主人公&専用機）紹介（前書き）

今回は、紹介です。

では、どうぞ！！

オリジナル（主人公& a m p;専用機）紹介

橘 一樹（たちばな かずき）

コードネーム 「ダークネス」

身長 170, 5 c m

体重 57, 3 k g

性別 男

趣味 読書、掃除、植物の世話

好きな食べ物 おにぎり（拾ってくれた研究者が最初に食べさせてくれたから）

嫌いな食べ物 なし

眼の色 黒⇒赤（I Sに乗ると両目に変色する）

髪の色 黒、長さは短め

容姿 一夏より少し上

性格 冷静沈着で暗いが小動物などには優しい。人嫌い。負けず嫌
い。依頼には従順。

6才の時に両親に捨てられ、研究員に拾われ、研究所に連れて行か
れる。その研究員が行方不明になると同時に肉体改造される。その
結果、身体能力、記憶能力などが向上した。その影響か開発実験中
のISを動かせるようになる。
コードネームは仕事の時に使う。

専用機 『ブラック・ダークネス』

製作、改良者 橘 一樹

一樹が最初に動かした実験機（第2世代最後期相当）を改造、改良
して第4世代相当まで進化させた。一樹はブラックキーと呼ぶ。色は
黒色、ワノオフアビリティ発動時に真紅の傷の様なラインが入る。
アーマーは少なめ、攻撃と防御が低い代わりに機動力が全ISの中
で最高ランク。完全ステルス機能があるがエネルギーを大量に消費
し、しかも相手を攻撃すると解除される。忍者の様な形をしていて、
アンロック・ユニット
非固定浮遊部位はマントの様な感じ。

待機状態 ガントレットタイプ

戦闘スタイル 近接格闘型

武器 クナイ型近接武器×2

小太刀型ブレード

チャフ内臓けむり玉×2

ワンオフアビリティー『ぜっせい絶影』

一樹が改造、改良していた時に発現したアビリティー。発動すると
ユニット防御を捨てて機動力を跳ね上げることができるが、速くて視認でき
なくなる為、連携には向かない。使用可能時間は1分。それ以上使
うと・・・。

オリジナル（主人公& a m p;専用機）紹介（後書き）

という感じです。

考えてると頭が痛くなるくらい考えがまとまらなくて苦戦します。

では、意見や感想お願いします。

作者退場

．．．．．

一樹「なっ！なぜ俺のデータが？消しておこう。」

ピッ！

一樹「これでよし！」

．．．

DELETE．．．

第0話 一始まりの日一（前書き）

やっと話が始まりそうだ。

では、どうぞ

第0話 一始まりの日一

研究所壊滅事件から数日。

俺は、ある目的のために依頼主の元へ訪れていたのだが・・・。

「散らかり放題だな・・・。」

と、呟いていた。なぜかというと、

いろんな機材やらよくわからん部品なんか散乱している部屋ラボを無理やり歩き、依頼主を探す。

「ん?」

視界の端で何かが動いた。よく見るとうさぎの耳の様に見えるが・・。

「あんたか？今回の仕事の依頼主は？」

瓦礫^{がれき}の中からうさ耳をつけた女の人顔を出した。

「やつほく！私が『天才依頼主』の束さんだよ！」

・・・。

えーと、天才依頼主って何？・・・ってそんなことどうでもいいの

だが・・・。

まうなんだ。それにしても説明しにくそうな人だ・・・。

なんというか、姿からして意味がわからない。不思議の国のアリスみたいな感じの真っ青なドレスを着ていてエプロンと大きな背中のリボンが特徴的なのだが・・・。

なのになぜかうさ耳が付いているという・・・よく分らん格好だ。

それよりも・・・だ。

「報酬を貰いに来たんだが・・・。」

「フッフッフ。そー言うと思ってね・・・ジャッジャーン!!!!」

と言うと書類の束が降ってきた。

「何だ？これは・・・？」

「何って言われても」（笑）報酬だよ！・・・っと！！」

言葉を言い終わる瞬間、懐ふところのナイフで切りかかったがかわされた。
いや、何かが違う・・・。

「もゝ危ないなあゝ」

とか言いながら結構楽しそうだった。

「君は、報酬の旅立ちのために必要なチケットを捨てるつもりかい？」

「君はこれからIS学園に入ってもらおうよ。じゃあね〜かずくん
!」

手をブンブン振りながら彼女は言った。

「またね〜!!」

言い終わると、東さんはいなくなっていた・・・。

彼女がいなくなってから、この違和感の正体にきずいた。

「チツ、ホログラム立体映像か……。つーかかずくんて何なんだよ……。
」

こうして敗北感とともに俺の、いや橘　一樹としての新しい生活が
始まろうとしていた。

第0話 一始まりの日一（後書き）

次からやっとな原作に入れそうだ。
これから頑張らないと・・・。

では、意見や感想お願いします。

第1話 一新たなる場所一（前書き）

ようやく原作の1巻に入れる？かな。でも、最初の方は飛ばします。
あと原作に入ってくるので少し長めです。

あと作者は、ナレーションも兼ねています。

では、どーぞ。

第1話 一新たなる場所一

あれから3日後・・・

ところ変わってココはIS学園。

IS学園の教師、織斑千冬はいろいろと心配していた。

何が心配かって？それはもちろん「k」[ゴスツ]ガハッ！！・・・
すいませんでした・・・。

「ふっ、分かればいい。」

と、そこに

「何がですか？」

と声を掛けてきたのは、千冬のクラスの副担任の山田真耶。

「ん？ いや、なんでもないから仕事に戻ってくれていい。」

「そうですか？ では。」

そう言うと、山田くんは仕事に戻った。

『だが、一夏のことが心配なのは本当だ。』

『あいつと、オルコットが対決することになるとは・・・な。』

『それに橘一樹・・・こいつは一体何者だ？』

そんなことを思いながら、送られてきた書類を眺めていると、

ヴンヴン

電話が掛かってきた。千冬は、電話に出るためにしぶしぶ席を外した。

場所を移し、電話に出る。

「はい。織斑d」

{もすもす終日^{ひねもす}!! 皆のアイd}

ピッ!

てか、ちょっとちょっと！電話はいきなり切るもんじゃn「ゴスッ
「ぶふっ！

「うるさい。なぐに心配しなくてもすぐに・・・、」

ヴンヴン

「掛かってくる。」

と言い、不敵な笑みを浮かべながら電話に出る・・・。

「で、何だ？束。」

「もー！ひどいよちーちゃん！！いきなり電話切ったりしてー！束
さんは悲しいよー。」

「用件はな・ん・だ？」

ちよ千冬さん。ちょっと、こW「ギロリ」いえ、何でもありません。

「も、まっいいや！でね、用件というのはね。じつは――
」。

あれ？おかしいな。聞こえない……。くそっ！お約束か？お約束なのか！？

「何？それは本当か？それが本当なら大変だぞ。」

「そ、なんだよね！まあ、もうすぐ着くと思うからね。後はよろしく！！」

「何？それはどういうこと」

プツッ、プープープー……。

「チツ、切れたか。だが、そんな奴が学園^{ユウ}に来るとはな・・・。」

それは一大事だ。そう思い、千冬は職員室に戻ろうとする。だが、

「あなたがブリュンヒルデですか？」

と、見知らぬ男子生徒に声をかけられた。

「ツ———!!」

「あれ？そんなに驚かなくていいのに・・・。」

「あつ、いやすまん。考え事をしていたのでな。」

『だが考え事をしていたにせよ、さっきまで人の気配がなかった・・・。
やはり、コイツが』

「ええ、コードネーム ダークネス。今は、橘一樹です。」

「ッ———!!!!」

今度は考えを読まれ、さらに驚く千冬。

「まあ、僕の詳細なことは他には秘密でお願いしますね。これから宜しく願います。」

と言い、一礼する。

「ああ、よろしく。」

こうして、一樹の部屋を用意したりと千冬にとってこの日は色々忙しい日となった・・・。

・
・
・
・
・
・
・

翌日

「えーと、今日はなんと転校生を紹介します。」

と、山田先生が言った途端に教室がざわめき出す。

「では、どうぞ入ってきてください。」

教室の皆が息をのむ音がする・・・。

そんな中、織斑一夏は、

『転校生か、微妙な時期に来たな……。いや、今は決闘の事に集中だ。』

と、考えていた。

そう、今日は一夏とセシリアが対決する日だ。一夏にはそんな事を気にしている場合じゃない。

だが、その転校生の姿を見て皆が驚愕することになる。

理由は簡単だ！

その転校生が男子……。IS学園二人目の男子生徒だったからだ。

第1話 一新たなる場所一（後書き）

今回はほぼ千冬目線で進めてみました。

なかなか話が進まない……。てか、話がやっと1巻と繋がった

これからも頑張りますよ！

では、意見や感想お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2035s/>

暗闇の中からの脱出-太陽と月の物語-

2011年10月8日22時28分発行